

北海道研会報

北海道道德教育研究会

第 180 号

発行所：北海道道德教育研究会
事務局：〒004-0053
札幌市厚別区厚別中央 3 条 2 丁目 3 番 1 号
札幌市立信濃中学校
TEL 011-891-2503 FAX 011-891-0736
発行人：三 上 寛 晃
編集人：大久保 俊 博

札幌にて全道学習会が開催されました

7 月 29 日 (火) の午後に、札幌市立元町小学校にて、全道学習会が開催されました。

全道学習会では、本研究会の三上会長（札幌市立真栄中学校校長）の挨拶の後、全道大会札幌大会の運営委員長である札道研の長野会長（札幌市立元町小学校校長）から御挨拶をいただきました。その後、北道研研究部長の奥山先生（札幌市立向陵中学校）より研究主題「自己理解を深め、よりよい生き方を自ら考える続ける児童・生徒の育成」について、以下のような説明がありました。

- 研究主題のキーワードは「自己理解」と「よりよい生き方を自ら考え続ける」である。「自己理解」とは、自分との関わりで道德的価値を捉えることであり、「よりよい生き方を自ら考え続ける」とは道德的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題をもち、どう生きるべきかを考え続けることである。



その後、全道各支部からの活動報告がありました。中でも、全道大会札幌大会を控えている札幌支部からは、大会研究副主題について、多数の資料を用いて丁寧な説明がなされました。札道研小学校研究部長の吉田先生（札幌市立新川中央小学校）と札道研中学校研究部長の真壁先生（札幌市立上野幌中学校）からは、次のような説明がありました。

- 今回の全道大会における小中部会共通の研究副主題は「主体的に道德的問題を見出す学び」であり、小学校部会研究テーマは「『思慮深さ』を育む、問題追究的な学びの創造」、中学校部会研究テーマは「対話を通して自己の在り方に気づき、よりよい生き方を追求する学び」とした。
- 小学校部会研究テーマについて、部会では、『思慮深さ』を、『子どもが道德性を本質的な方向で発揮するために、自分なりによりよい生き方を選択・判断し続けようとする心の働き』と定義し、それを育むため日々の授業を大切にしている。授業において『思慮深さ』を育むためには『問題追究的な学び』を積み重ねることが何より大切である。『問題追究的な学び』とは『子どもが問題意識をもち、高めながら、主体的に道德的問題を追究し、対話を通して共通解を醸成し納得解を紡いでいくような学び』と定義している。そのような学びを作り出すために『問題意識の高まりから、主体的な学びを生む』『対話を組織し、共通解を醸成する』『納得解を紡ぎ、道德的価値の内面化を図る』の 3 つの視点で授業作りを進めているところである。
- 中学校部会研究テーマについて、部会では特に『対話を生かす』『自己の在り方に気づく場面を設ける』の 2 つの視点を大切にしている。『対話を生かす』ために、教材や生徒、教師、自分自身との対話の場면을意図的に設定し、個別探求、協働探求の段階を通して、生徒が自己の在り方を考え、気づけるようにすることを意識した授業作りをしている。『自己の在り方に気づく場面を設ける』ために、今の自分を客観視したときに見える自己の姿や在り様について考え、これからの自分はどのように生きたいのか、どうなりたいのかといった未来の姿について考えることが大切になってくる。生徒一人一人が、そのように考えられるよう、とりわけ発問においては「前理解」「共通解」「納得解」の 3 つが捉えられるよう、工夫し実践を重ねてきている。

記念すべき第 60 回となる札幌大会まであと二か月、実りの秋を目指し、猛暑の中で、熱い議論が交わされた一日となりました。

講演会

『児童・生徒が自己理解を深め、よりよい生き方を自ら考え 続ける道德教育を目指して』

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官

堀田 竜次 氏



堀田竜次先生から道德教育について御講演いただきました。

《以下、御講演の概要をまとめましたので、掲載させていただきます》

- 道德の学習は、人生をいかに生きるべきかを考える学習であり、子どもがよりよく生きたいという願いに応えるためには、子どもと教師が共に考え、共に探求することが大切である。
そのために、授業作りでは、「学習指導課程、手立て」「発問」「児童の発言を傾聴して受け止める」「教材の活用」「児童の発達の段階や実態」「特に配慮を要する児童」について考えていくことが必要である。
- 自己理解を深めるためには、「価値理解」「人間理解」「他者理解」を通して自己との関わりで考えることや考え議論すること、個別最適な学び、協働的な学びが伸ばしたい自己を深く見つめられるようにすることが重要である。
- 授業づくりのポイントとして、台東区立根岸小学校及び常陸太田市立瑞竜中学校の実践を例に、
 - ①「ねらいを明確にすること」
年間指導計画や主題、学級の実態をもとに考えていくことが大切。
 - ②「教材を読む」
教材で学ぶことができる道德的価値とその論点の展開の仕方を考えることが大切。
副詞（ゆっくり、急に、とんでもない）をいかに読むか考えることも効果的である。
 - ③「中心になる場面を考える」
一番深く考えさせたい箇所、登場人物の意識や行為が変化した箇所を中心として考えること。
 - ④「中心的な発問を考えること」
主題や内容項目、ねらいをもとに発問を考えていく。
 - ⑤「前後の発問を考える」
多くなりすぎないように気をつけながら、中心的な発問を生かすための発問を考えていくこと。
- 根岸小学校の実践から
「自分の長所を伸ばそうとする態度を育むこと」をねらいとした授業。
事前にとったアンケートを活用し、子どもたちの現状を明らかにした上で、教材文を読んだ後に、心情メーターを使って自分の立ち位置を明確にしている。その後、グループや全体で話し合い、児童が、より自分の考えを広げられるように、板書を生かしたり、発言の意図を聞き取ったり、心情メーターの変化に着目したりした。また、事前にとったアンケートに戻ることで、自分自身について振り返ることができていた。
- 瑞竜中学校の実践から
「自分と向き合って生き方を考えようとする態度を育むこと」をねらいとした授業。
事前にとったアンケートを活用し、子どもたちの現状を明らかにして、事前に読んだ教材文の内容を、近くの人と交流して確認。発問に対する、それぞれの考えを明らかにするためや、グループで出た意見を逃さないために、ICT 機器とホワイトボードを活用している。また、考える必然性や、物事を多面的・多角的に捉えられるような発問がなされている。最後に、登場人物に向けて手紙を書くことで、子どもたちが自己のこれからの生き方について考えられるよう工夫していた。

堀田調査官におかれましては、御多忙の中、遠路はるばる札幌までお越しいただき、ありがとうございました。

今回もまた、たくさんの御示唆を賜り、明日からの道德科の授業に生かせる、大変実りの多い御講演をいただきました。改めて、心より御礼申し上げます。